



夏期講習がんばれ!

ー夏からがんばった人たちの高校受験体験記ー

★T・Aさん 新松戸教室 中3 Sコース在籍

(進学先) 県立鎌ヶ谷高校

私が一番頑張ったなと思ったのは、中学三年生のときの勉強合宿です。今までやったことのないくらいの勉強量が驚きました。でも、合宿があったから、今の勉強体制を整えることができたのだなと思います。中学三年生になってからは、受験が近づくにつれ、毎日がとても辛く、不安でした。でも、創学舎の先生方、友達、家族の言葉がとても励みになりました。創学舎の授業やテキストはどれもとてもわかりやすく、私の自信に繋がりました。私が今こうやって志望校に合格できたのも先生たちのおかげです。本当に今まで三年間ありがとうございました。高校でも創学舎で学んだことを生かして、何事にも頑張っていきます。

★M・Oさん 江戸川台教室 中3 A1コース在籍

(進学先) 県立東葛飾高校

私が創学舎に入ったのは、中三の八月でした。最初は思った以上に宿題が多く、大変でしたが、その宿題をやることで確実に力がついていきました。また、どの授業も面白くて分かりやすく、モチベーションも上がっていきました。模試の結果が悪くて悩んでいたときも、先生方が優しく励ましてくださり、私はその度に元気づけられました。私は特に数学が苦手でしたが、数学の副教材を進めていくうちに苦手が少しずつ克服されました。休日でも補講や勉強会などがあり、ほとんど受験勉強に打ち込むことが出来て良かったです。



★S・H君

新松戸教室 中3 Sコース在籍
(進学先) 県立小金高校

僕は三年生の夏までは塾に入っていなかった。夏にそろそろ受験勉強をしなければいけないと思い、創学舎に入った。創学舎以外の塾にも体験授業に行ったが、創学舎にした。それはなぜかというと、授業がとてもわかりやすかったからだ。また、先生方がとても親切で明るかったからだ。夏期講習では毎日たくさん宿題が出されたうえに、副教材というものが出された。昨年の夏休みは休んだ気がしなかった。夏に創学舎で頑張った甲斐あって、二期の実力テストでは驚くほど順位が上がっていた。その後も宿題や副教材をやり続け、模試でも良い点が取れるようになっていった。

★I・Tさん

新松戸教室 中3 Sコース在籍
(進学先) 県立東葛飾高校

私は中三の夏期講習から創学舎に入塾しました。入塾する前は、受験生といっても何をどうしたらいいのか分からないし、勉強しても面白くない、という状態でした。でも、創学舎に入ってから、勉強が楽しいと感じるようになりました。そして、私にとって一番大きかったのは、勉強のしかたがわかったということです。どのような流れをつかめば理解できるのか、どのポイントを押さえれば良いのか、を学ぶことができました。これが私の成績が伸びた最大の理由だと思います。

★S・I君

柏教室 中3 A1コース在籍
(進学先) 県立柏高校

部活が長引き、夏期講習のスタートが周りより遅れて、夏休みは全然勉強ができず、志望校も決まっていなくて大変でした。でも、先生方のサポートで志望校も決まり、勉強もやる気が出てきました。私は落ちちゃったけれど、第一志望の高校に合格することができました。僕が三年間継続して創学舎に通えたのは、先生方の面白い授業

やサポートのおかげだと思います。つらい時期もありましたが、三年間楽しく創学舎に通えて良かったと思っています。

★O・K君

新松戸教室 中3 Sコース在籍
(進学先) 県立柏高校

三年の夏は勉強合宿で、苦手科目である国語の問題を何度も何度も解いていきました。また、創学舎の国語の先生の教え方が非常に上手で、とても分かりやすかったことも克服できた理由の一つです。テキストには解説が書いてあるため、わからないところを少しずつ減らしていきました。そして、特に効果が表れたのは、毎日必ず国語に関する問題を一題解いたことです。創学舎の先生から言われたことだけれど、それがとても役に立ちました。このおかげで私は国語で良い点数を取ることができたのだと思います。また、入試の二週間前あたりから基本問題を解き直してみた結果、忘れていたところをなくすことができました。

★G・K君

柏教室 中3 A1コース在籍
(進学先) 県立小金高校

僕は十月の半ばまで部活をしていました。そのため、他の人よりも勉強する時間が限られていました。しかし、僕はそんな中でも創学舎から与えられた副教材は毎日少しずつ取り組んでいました。それは、塾の先生が「副教材を毎日やっていたら、必ず力がつく」と言っていたからです。毎日部活のあった僕にとって最適の方法だったのです。部活もようやく終わり、入試まであと一週間近くまで迫ったところでした。僕は何をやらなければならないか分からなくなり、アドバイスをもらいに行きました。そんなときに先生たちは僕にとっても分かりやすいアドバイスをくださり、本番も落ち着いて取り組み、見事に後期のテストで合格できました。僕は副教材の力はきちんと感じていたのだなと思うと同時に、先生の言う力は本当に素晴らしいものだと思いました。創学舎の先生方に本当に感謝しています。

★K・Mさん

新松戸教室 中3 Sコース在籍
(進学先) 県立小金高校

私は中一のころから通信教材を使って勉強していましたが、中三の夏に創学舎に入塾しました。夏期講習のときは宿題が多くて「今までこんなにやったことがない!」というくらいの量をこなしました。宿題に時間がかかってしまい、副教材にまで手がまわりませんでした。けれど、この多い宿題のおかげで学力が伸びたのだと思います。また、わからないところを質問したときは、すごく丁寧に教えてくれて、苦手分野をつぶすことができました。



私は理科と数学が特に苦手でした。でも、塾に入ってから、苦手な教科にもきちんと向き合うことができました。似たような問題を繰り返し解くことで、確実に力がついたらと思います。夏から今まで、勉強ばかりの生活はとても辛かったです。でも、長い勉強時間とたくさん勉強量のおかげで無事合格することができました。塾の先生方にはとても感謝しています!

★T・Y君

新松戸教室 中3 Sコース在籍
(進学先) 県立柏南高校

僕には去年の夏、とても大変なできごとがありました。それは受験に向けての夏期講習です。この講習は昼から夜まで続く、とても大変、大変というよりは苦しいものでした。しかし、この講習は僕を大きく変えてくれました。今までの人生で一番の勉強量となるものでした。この勉強量だったから、誰にも負けないといえるくらいの自信があります。

創学舎の先生方はとても勉強に熱心で、驚くくらいでした。なぜこんなにも、とも思うくらいでした。僕はこのような先生方の授業を受けられることができて、とても嬉しく思います。この受験を乗り越えられたのは僕の努力と、なにより先生方の熱心な教えがあったからだと思います。本当にありがとうございます。

★M・Y君

柏教室 中3 Sコース在籍
(進学先) 県立東葛飾高校

僕は中三の夏から本格的に受験勉強を始めたのですが、最初は特に計画を立てず、闇雲に副教材を進めていました。それでも最初のうちは順調に成績が伸びていたのですが、途中で行き詰まってしまいました。

そこで、夏休み前に配布された「合格へのパスポート」を利用し、日曜日にその一週間の計画を立て、その計画に沿って勉強するようにしました。そうしたら伸び悩んでいた成績が少しずつ伸びるようになり、私立の過去問も最初は一七〇点もいかなかったのに二〇〇点を超えることができるようになりました。

「昭和世代の夏休み

の過ごし方①」

いよいよ夏休みになるわけだが、その夏休みに平成一つはどんな過ごし方をするのだろうか。そんなことを思いながら、昭和世代の私はどんなことをしていたのか振り返ってみることにしよう。

「自宅編」なぜか小学生の坊主は花火や爆竹が大好きであり、これらに絡む創意工夫は我ながら感心するところがある。例えば、「ロケット花火」を連射するにはどうしたらいいかという疑問を解決するのに近所の坊主どもが連日ミーティングを行う。そこで出た考え



を実際に検証するわけだ。ちなみにこのときは以下のようにしたと思う。用意したもの…ロケット花火二十本、爆竹一箱、コーラ瓶(これがポイントで当時のコーラ瓶は口が広がったのだ)一本、セロテープ、蚊取り線香一つ。実施手順…ロケット花火二十本の導火線を爆竹の箱に入っている長い導火線と順につないでいき、つなぎ目をセロテープで留める。花火の束をコーラ瓶の口に入れ、その瓶を砂や土で固定し、蚊取り線香で着火する。この蚊取り線香が肝で、実はやぶ蚊対策も兼ねている。検証結果…順に引火したものの、二十本では瓶に入れる花火の本数が多かったよう

詰まってしまう発射には至らず、瓶の口で順に破裂。その結果、瓶は粉々に。本数を五本に減らして再検証…連射はできたが本数が少なく、迫力が無かった。再々検証…小遣いを使い切ったため花火を買えずに検証できず。段取りを考えずに行き当たりばったりでやったものだからこんなオチになってしまった。結局この再々検証は翌年に持ち越しとなった。

「田舎編」小学生時代、毎年夏休みは祖母の田舎(茨城県岩井市(今の坂東市))に連れていかれてもらった。母親からすれば、夏休みとなると毎日昼食の手間がかかるもんだから厄介者扱いができたものという喜んでいたらしい。

さて、田舎に到着したらまずは一休みである。子供たちは夏の定番三ツ矢サイダーと畑で取ってきたスイカでおもてなし(実はこのおもてなしが後で困ったことにつながる)を受け、飼っていたチャボと軍鶏、七面鳥を相手に遊んでいるのが常だった。学校の飼育小屋と違って、この鳥たちは食糧提供のために飼われているのが我が田舎である。チャボだけは卵を提供するおかげで生き残るが、軍鶏と七面鳥は翌年の訪問時にはもはや会えない。どうなったかは想像にお任せしよう。

夕方日没後には迎え盆で墓に向かう。提灯のロウソクに火を入れてみんなで出発するのだが、途中の崖が真っ暗で、とても恐ろしかったことばかりを覚えている。

戻ってきたら田舎のおじさん(祖母の弟)が鯉のフルコースを用意してくれ、歓迎の宴がはじまる。庭の井戸水で泥を吐かせた利根川産のかい奴を目の前で捌いてくれるのだ。これを見ていてとても興奮していたことをよく覚えている。まさに理科の「解剖実習」そのものだった。肝心のお味は勿論 delicious である。

宴も終わりに、寝る時間になると子供としては少々困ったことが起きる。昼間のサイダーとスイカのおもてなしが原因でトイレが近くなるのだ。トイレが都会にある普通のトイレなら心配無用だが、ここは人間、犬、猫以外の動物を食べてしまうくらいワイルドな場所である。そう、いわゆる

「お釣りが返ってくる」トイレなのだ。トイレというより便所と呼ぶほうがふさわしい。しかも明かりが無い!もはや子供にとってトイレに行くことが肝試しになってしまっている。さあ困った。勇気をもって便所に向かうか、おねしょの危険を冒して朝を迎えるか……。

また田舎編初日の夜ではあるが予定字数を大幅に超えてしまった。この続きはまたの機会に。

(山崎)

父への謝罪、そして感謝

六月が「父の日」ということで、父にプレゼントを渡すため、今度の休みの日に帰省する予定だ。このイベントは、我が家の恒例行事となつているが、このイベントが始まったのは、私が結婚してからだ。

独身のとき、親へ「いつもありがとう」と言ったことがなかったと思う。正直、照れくさかったし、親が子供の世話をするのは当たり前だと思っていたからだ。しかし、結婚して、子を持つ親の立場になってみると、父の偉大さに気がついた。毎日仕事をし、休みの日は家族のことを考え、疲れているにも関わらず、子供が行きたいところに連れていく。そして、また次の日から仕事に出かける。普通なら、「自分の時間がほしい。」や「独りになりたい。」とか言いたくなるところだ。しかし、父はそのようなことを一切言わなかった。いや、もしかしたら、母にだけは言っていたのかもしれない。ただ、私には決して言わなかったし、態度にも出さなかった。だから私は、父の行動を当たり前だと考えるようになり、感謝しなくなっていた。そして、事件は起こった。

小学生の夏休みに父は、一泊二日の旅行を企画した。その旅行は、父の実家である栃木県の某所にあるコテージに泊まるものだった。さらに父は、夜に私たちが大好きなバーベキューをすることも計画していた。私たちが喜んでくれることを信じて……。



夕食時、バーベキュー会場に行ってみると、そこは沢山の虫が集まって、食事するのも億劫な状態になっていた。その光景を目の当たりにした私は、食欲が失せ、ただ立ち尽くすだけだった。今考えると、当然の光景だった。そもそも、コテージは山のふもとにあり、季節は夏であるから虫が沢山いるのは当たり前だった。しかし、当時の私は、虫が苦手だったため、立ち尽くしてしまった。

そんな私の様子を気遣ってか、父は盛り上げようとしてくれた。しかし、私はそんな父に一言、「つまらない。」と言ってしまった。そのときの父の悲しそうな表情を見て、心の中で「言い過ぎた。」と思いつつも、当時の私には父への感謝の気持ちがなかったため、そのまま冷たい態度をとってしまった。それ以来、家族でどこかに泊まりに行くことはなくなった。

その後、社会人になった私に家族ができた。そして、長期連休に家族とどこかへ旅行に行けたらなと考えていたある日、コテージで宿泊できるプランが掲載されているチラシを見つけた。それを見た私は、自然の中で寝泊まりできたら、きつと子供も喜ぶだろうなと思った。その瞬間、家族で泊まったコテージの記憶が蘇った。そして、あのときの父の思いに気がついた。今の私と同じ気持ちだったのではないか。そして、私は父になんてひどいことを言ってしまったのだらう。それに気づいた後、深い後悔が私を襲った。父に、あのとき言ったことを謝りたい。そう思って、会うたびに言おうとするが、中々言葉にできない。そんなこんなで今に至る。

たぶん、これから先、きちんと謝ることはできないかもしれない。しかし、父の家族への思いを知ったあとは、父への感謝を忘れたことはない。だから、今度会うとき、照れくささはあるが、きちんと「いつもありがとう」と素直な気持ちで伝えようと思う。いつまでも変わらず、家族のことを思ってくれている父へ。(矢上)

▼▲継続希望の方へ▲▼

- ▶退塾や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
- ▶在籍していた教室までご連絡ください。